

表紙の言葉

『黒漆葵紋菊螺鈿箱』

蓋にはそれぞれの面に杵を設け、三つ葉葵紋と、その周りを菊唐草文様で飾り、箱には側面それぞれに、中国の役人や文化人の教養であった琴・棋・書・画の図が表現されています。底裏にも竹文様が施されています。

枠外は、細かな菱形や木の葉形に切られた貝を組み合わせて、箱全体を埋め尽くしています。非常に精緻な螺鈿技法（薄く加工した貝を文様の形に切り取り貼る技法）の作品です。

箱の内側は朱塗りで、仕切りや掛子はありません。印や香を入れて使用したものでしょうか。この作品には家紋が付けられているので、献上品か、特に注文を受けて作られたものでしょう。

薩摩の侵攻以降、薩摩には毎年、江戸へは将軍や琉球国王の代替わりの時に使者を派遣していました。その際には、織物や泡盛の他、琉球漆器も贈られています。

将軍家へは、琉球国王から将軍や御台所それぞれへ、琉球の使者（正使）からそれぞれへ、といった具合に何組もの献上品が準備され、贈り主や相手によ

って贈り物の種類や量が変わっています。

古い記録を見ると、将軍家への献上品では漆器は国王からの贈り物として準備され、正使からはありません。国王から贈られる漆器でも、将軍には「大卓2つと硯箱一組」に対し、御台所へは「料紙箱と硯箱を一組」、というように内容が変わっています。漆器はこうした格の差をつける品となっていたのです。

ただし、薩摩への献上品では、国王だけでなく使者などそれぞれから漆器が贈られており、江戸への献上とはまた違っていました。

今期の常設展示では「琉球漆器と世替り」と題して、薩摩の侵攻や琉球処分（廃藩置県）といった時代の変化と共に、琉球漆器がどう変わっていったかを紹介しています。この作品も、琉球の外交に漆器が果たした役割を証言する貴重な品として展示中です。（岡本）



(左)箱全体
(右)底裏面

美術館スケジュール 2009年4月～7月

■常設展

琉球王朝文化の華－漆芸－

■平成21年度前期

「琉球漆器と世替り－薩摩侵攻400年・琉球処分130年－」
・4月3日（金）～10月上旬

■企画展

■美術展自主企画

- ・4/29(水)～5/17(日) 王国時代の琉球 収蔵品展
- ・6/5(金)～6/28(日) パリパリ★フヤン!?展

■その他

- ・4/11(土)～4/26(日) 琉球・沖縄2人展
- ・5/23(土)～5/31(日) 吉永ます子 絵画展
- ・7/1(水)～7/5(日) 第10回 美美的会 絵画展
- ・7/8(水)～7/12(日) 金城清子 絵画展
- ・7/18(土)～8/30(日) 風の画家 中島潔の世界展

開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
*金曜日は午後7時まで（入館は午後6時30分まで）

休館日

毎週月曜日（公休日の場合は開館）
*展示替えにともなう臨時休館3月23日(月)～4月2日(木)

開館日のお知らせ

当美術館の休館日は毎週月曜日となっていますが、**月曜日が公休日**の場合は**開館**しています。またその際、代休日は取らずに次週の定期休館日まで連日開館します。どうぞお気軽にご来館ください。

来館者150万人達成！



平成2年2月1日に開館した浦添市美術館。19年目で来館者が150万人を突破しました。記念の150万人目の来館者となったのは、高江洲豊さんとそのご家族です。「親しみやすい雰囲気的美術館で、何度もきています」「木々に囲まれていて会場もゆっくり出来るから好きです」と語ってくれました。高江洲さんには、記念に美術館収蔵品図録や「親子のアトリエ展」の関係グッズが贈られました。

館長より

「美術館は敷居が高い」というイメージがありましたが、近年は気軽に楽しめる美術館として親しまれており、大変嬉しく思っております。全国の美術館の年間平均入館者が3万人といわれていますが当館は約8万人であり、専門美術館としては順調な運営といえるでしょう。

これも企画展はじめ多くの事業関係者のご協力があったことであり、感謝申し上げます。これからも多くのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

浦添市美術館館長 前田孝允

編集・発行 浦添市美術館

Tel: 098-879-3219

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9-2

Fax: 098-878-1221